

WLAC REPORT 2024

World Liberal Arts Center Report



名古屋外国語大学
ワールドリベラルアーツセンター長
亀 山 郁 夫 (学長)

巻 頭 言

ここに名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンターの活動報告書「WLAC REPORT 2024」をお届けします。

2015年に発足した本センターは、日本を含む世界諸地域の言語、文化、芸術、教育、社会、政治等に関わる種々の問題系を掘り起こし、21世紀の現代にふさわしい教養教育の理念構築に寄与することを目的としています。例年、本レポートでは、年間を通して開催されたイベントやシンポジウムを紹介していますが、今年の見玉は、この一月に名駅キャンパスにて行われた「複言語複文化主義」をめぐるシンポジウムです。この分野で先駆的なお仕事をされているお二人（細川英雄早稲田大学名誉教授、山本冴里山口大学准教授）をゲストに迎え、社会言語学的や言語教育学の観点から、「ことばの教育」をめぐる3時間半にわたり熱心に議論が繰り広げられました。また、個別のイベントとしては、今や恒例の企画となったプロ劇団によるドラマ上演（THAT Production Companyによる「マクベス」公演）、日本文学研究者テッド・ゲーセン氏による講演会などが挙げられます。ただ、今年は、総じて後援の側にまわった企画が少なくなく、来年度は、捲土重来を期してより活発なイベント活動が望まれます。

他方、地域連携の柱の一つである「WlacTALK」（3月）は、今年3年目を迎え、地域教育連携センターとのジョイントにより無事開催の運びとなりました。今年のテーマは、「食と世界」。愛知県および近県から参加した約40名の高校生に対し、「世界教養」の新たな側面を提示することができました。また、本センターの機関誌「Artes MUNDI（アルテス・ムンディ）」は、今年創刊10年を迎えて、例年になく充実した厚みのあるものとなったことを喜びたいと思います。これを励みとして、次年度もまた、今年に劣らない知的発信の強化に努めたい考えです。WLACの事業の柱の一つであるNUFSオープンカレッジも順調に受講生の数を伸ばし、その勢いをかって、今年度もまた冬期特別講座（集中）を開くことができました。関係者の皆さまのご尽力に対し、心より御礼を申し上げます。

最後に、各イベントの開催にご尽力くださいました方々、また、ご参加くださった地域の皆さまに心より御礼申し上げます。これからも日進と名駅の二拠点をフルに利用しつつ、より地域に密着した活動を展開してまいりたい所存です。

2025年3月

2024 年度 活動一覽

講演会 2024 年 5 月 7 日 (火)

長編小説は生きている キミたちはどう読むのか

講演者：亀山 郁夫（名古屋外国語大学学長）
野谷 文昭（東京大学・名古屋外国語大学・立教大学名誉教授）
沼野 充義（名古屋外国語大学教授・東京大学名誉教授）
司会・コメント：吉本 美佳（名古屋外国語大学教授）

名古屋外国語大学出版会、
名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館、WLAC 共催

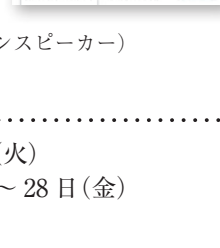


シンポジウム 2024 年 6 月 1 日 (土)

「なんで言語学やるの？」時にゆるく、時にガチで

講師：川原 功司（名古屋外国語大学教授）
谷口 ジョイ（静岡理工科大学教授）
黒島 規史（熊本学園大学准教授）
水野 太貴（編集者・YouTube、Podcast 番組「ゆる言語学ラジオ」メインスピーカー）

名古屋外国語大学英米語学科、WLAC 共催



月間イベント 【2024 年 6 月 3 日 (月)～6 月 28 日 (金)】① 6 月 4 日 (火)

② 6 月 13 日 (木) ③ 6 月 26 日 (水) ④ 6 月 3 日 (月)～28 日 (金)
⑤ 6 月 5 日 (水)、11 日 (火)、20 日 (木)、28 日 (金)

イタリア語月間イベント

① オペラな声と呼吸 レクチャー&コンサート ② ジェレヴィーニ先生のイタリアントーク
③ イタリアンコーヒー講座 ④ 図書館特設ブースの設置 ⑤ 7 号館食堂での料理提供

- ① 出演者：甚目 裕夫（名古屋外国語大学講師、オペラ指導者）
市居 有香さん（ピアニスト）、石田 聖子（名古屋外国語大学准教授）
② 出演者：アレッサンドロ・ジェレヴィーニ（名古屋外国語大学准教授）
石田 聖子（名古屋外国語大学准教授）
③ 出演者：柴田 有香（名古屋外国語大学講師）
ジョヴァンニ・ニューディ（名古屋外国語大学講師）
石田 聖子（名古屋外国語大学准教授）

名古屋外国語大学言語教育開発センター、WLAC 共催



公演 2024 年 10 月 11 日 (金)

THAT Production Company による「マクベス」公演

劇団員：トビー・マーティン、エラ・ジャズ・マクロカニス

名古屋外国語大学現代英語学科、WLAC 共催
株式会社タラント協力

映画上映会 2024 年 10 月 27 日 (日)

映画『「生きる」大川小学校 津波裁判を闘った人たち』を忘れない

講師：吉岡 和弘（仙台弁護士会所属弁護士、本作出演）

名古屋外国語大学教職センター、名古屋学芸大学地域連携推進研究機構、WLAC 共催



映画上映会 **講演会** **フリートーク**

【2024 年 10 月 30 日 (水)～11 月 7 日 (木)】

① 2024 年 10 月 30 日 (水) ② 2024 年 11 月 6 日 (水) ③ 2024 年 11 月 7 日 (木)

タミル映画に見るジェンダーとエスニシティ

① 映画上映会
② 講演会（英語）「タミル映画に見るジェンダーとエスニシティ」
③ フリートーク「ジェンダーとエスニシティ、タミル映画についてラジ先生と語る」

講師：サルヴァラージ・ヴェレイユサム（マッコーリー大学社会学部准教授）

名古屋外国語大学世界教養学科、WLAC 共催



セミナー 2024年11月27日(水)

いま、私たちに何ができるか？

積み重なる危機のなかの子どもたち ～ UNICEF の使命と活動～

講演者：ロベルト・ベネス（国連児童基金（UNICEF）東京事務所代表）

名古屋外国語大学グローバル共生社会研究所（RINGS）主催
WLAC 後援



週間イベント 【2024年10月24日(木)～12月9日(月)】①10月24日(木) ②11月14日(木) ③11月19日(火)
④11月18日(月)～21日(木) ⑤12月9日(月)

フランスウィークス 2024

①講演会「21世紀のパレエ」②弁論大会

③講演会「外資系企業ってどんなところ？～20年超勤務した今だから分かること・見えたこと～」

【在学生向けイベント】

④Fête de la musique ～NUFS 音楽ウィーク 2024 秋～

⑤講演会「フランス語はどのようにして生まれ今日の姿になったか」

講演者：①ローラ・キャベル（ソルボンヌ・ヌーヴェル大学准教授）
③鈴木 基之（K.K. CEVA Japan 名古屋支店長）
⑤オリビエ・ベルトラン（フランス国立理工科学学校教授）
⑤イザベル・シャフネール（フランス国立理工科学学校教授）

名古屋外国語大学フランス語学科、WLAC 共催



講演会 2024年12月11日(水)

北方先住民族の文化復興と国家政策 シベリア・北海道

講演者：佐々木 史郎（国立アイヌ民族博物館・館長）

名古屋外国語大学世界共生学科
名古屋外国語大学グローバル共生社会研究所（RINGS）、WLAC 共催



講演会（英語）2025年1月8日(水)

From Murakami Haruki to Kawakami Hiromi: translating Japanese contemporary literature

講演者：テッド・グーセン（ヨーク大学名誉教授）

名古屋外国語大学世界教養学科、WLAC 共催



シンポジウム 2025年1月11日(土)

複言語複文化主義と共生社会 —ことばの教育のめざすもの—

パネリスト：亀山 郁夫（名古屋外国語大学学長）、山本 冴里（山口大学准教授）

細川 英雄（早稲田大学名誉教授・八ヶ岳アカデミア主宰）

指定討論者：佐藤 雄大（名古屋外国語大学教授）

司会：近藤 有美（名古屋外国語大学教授）

WLAC 主催



シンポジウム（英語）2025年1月18日(土)

2025 Teacher Development Symposium

ヘレン・スペンサー・オーティ（ウォーリック大学名誉教授）

マーク・ヘレガスン（宮城学院女子大学名誉教授）

名古屋外国語大学言語教育開発センター主催
WLAC 後援



フォーラム 2025年3月8日(土)

WlacTALK 高校生のためのリベラルアーツ —世界の〈人文知〉に触れる—

WlacTALK 担当の先生方

WLAC 主催



2024 年度 WLAC 主催シンポジウム

2025年1月11日

「複言語複文化主義と共生社会 —ことばの教育のめざすもの—」

2025 年 1 月 11 日（土曜日）、名古屋外国語大学名駅キャンパスの多目的ラボで、「複言語複文化主義と共生社会—ことばの教育のめざすもの—」と題したシンポジウムが開催された。対面のみでの開催にもかかわらず申し込みが殺到し、あっという間に 100 名の定員に達した。本シンポジウムには、『複数の言語で生きて死ぬ』（2022, くろしお出版）の編著者で複言語教育の研究者・実践者でもある山本冴里先生（山口大学国際総合科学部准教授）と、同書著者の一人で言語文化教育学者の細川英雄先生（早稲田大学名誉教授・ハケ岳アカデメイア主宰）をパネリストとしてお招きした。



シンポジウムの前半では、亀山郁夫学長（WLAC センター長）を加えたパネリスト 3 名それぞれの立場から捉えた「複言語複文化主義」に関する発表が行われた。「複言語主義・複文化主義に学ぶ—新たな人文学的知の発見をめざして—」と題した亀山学長の発表では、「ナショナルアイデンティティとトランスナショナルアイデンティティ」「境界としての戦場」「隔てるものとしての言語」をキーワードに、これまでのご自身の体験を振り返りながら、複言語話者であるがゆえの葛藤が伝えられた。



新たな価値の獲得に結びつけることもできる」とし、混雑的な言語使用に豊かな可能性があると述べられた。そ

続く山本先生の「混淆する言葉、立ち向かう言葉—汽水域の言語教育を考える—」では、複言語に関連した二つの教育実践が紹介された。一つは、初修外国語 18 言語を 1 科目で扱うというもので、もう一つは、「排斥を煽る言葉への危機感」から生まれた「立ち向かう言葉」という実践である。どちらもいわゆる上達をめざす言語教育ではない。「逸脱・変異を否定的に位置づけるのではなく、

して、細川先生の「伊那谷の老婆と複言語複文化主義—共生社会とことばの教育—」の発表では、欧州評議会の「ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）」の設立の背景および複言語複文化主義に関するご自身の解釈を詳細に説明された。そして、「ことばの教育のめざすもの」は、「言語や文化の原理・システムの教授ではなく、社会的行為主体のことばと文化による活動が活性化するような場を設定すること」以外にはないと言及された。

シンポジウム後半には、指定討論者として現代英語学科の佐藤雄大教授が加わり、パネルディスカッションが行われた。佐藤教授からは、複言語主義



を阻むものとしての英語の存在、分断を生む個体能力主義的な外国語教育への批判等、クリティカルな視点からの問いが提示され、パネリストとの活発な議論へと発展した。「（複言語という視点からいうと）英語は敵ではない。英語も日本語も自分なりのことばをつくっていく要素…」と山本先生。「点数化ではなく、自分のできることを増やすためのことば」と細川先生。会場からも多くの質問が寄せられた。「複言語主義とクレオールの関係」を問う質問に対し、「70 億人のことばを 7000 の言語に分類できるのか。単言語はあり得ないというのが僕の立場」と細川先生が答えると、「単言語はあり得ないんですか」と亀山学長。山本先生も「わかりますが、納得していない…」と。

予定を 45 分超過し、シンポジウムは活発な議論の末に無事閉会を迎えた。複言語複文化主義の実践とその教育への反映が、今後ますます注目されるだろう。アンケートには、第二弾を望む声が多く寄せられており、このテーマへの関心の高さがうかがえる。

（国際日本学科 近藤 有美）



高校生に開く大学の学び

世界の〈人文知〉に触れる 高校生のためのリベラルアーツ——「食と世界」を開催

2025年3月8日の土曜日、名古屋外国語大学名駅キャンパスの多目的ラボにおいて、WlacTALKのイベントが開催された。第4回目となる今回は、「世界の〈人文知〉に触れる 高校生のためのリベラルアーツ 食と世界」と題して、ランチタイムを挟み、午前はレクチャーとワークショップ、午後はレクチャーと食にまつわるブレイクタイム、および締めくくりとなる総合レクチャーの3部形式で実施した。近隣の高校から、2名の教員を含む合計35名にご参加いただき、本学の留学生と学部生のアシスタントもまじえて活発な交流と学びの場を体験していただいた。愛知県教育委員会からもお運びくださり、スタッフ一同とともに、高校生の方々の生き生きとした反応や発言を嬉しく見守った。

10時に受付を開始し、10時40分に開会のことばが述べられたあと、午前のワークショップが始まった。「地元の味から世界を知る 食文化と観光を通じた社会の読み解き」と題して、城月雅大先生のレクチャーが行われ、地元の食と世界を繋ぐ躍動的なお話しが展開した。続くハンフリー恵子先生のリードによるワークショップでは、高校生の各グループに留学生と在学生在が一人ずつ参加し、英語でレシピを読み解くアクティビティが行われた。それぞれのグループは、協力してレシピのイラストを仕上げ、最後の発表ではレシピにまつわる映画のワンシーンを視聴しながら、互いの成果を確認しあった。ファシリテーターの平山先生とムーディ先生のアシストにより積極的な意見交換が行われ、和やかな雰囲気でのランチタイムを迎えた。

昼食は、城月先生のコーディネートのもと、多目的ラボの向いにある図書室「WLALi」にて、「スマートランチ」を用意してくださった企業のかたのお話を伺いながら、今回のイベントのために特別に配達していただいたお弁当に舌鼓を打った。食の体験とリベラルアーツが融合した貴重な時間となった。

午後の最初のレクチャーでは、根無一信先生より、「美味しいものが美味しいのはなぜ？」というタイトルのもと、哲学的な方面から「食」についてさまざまな問題提起がなされ、フロアの高校生のみなさんと双方向的に意見を交わす、刺激的なセッションが展開した。その後のブレイクタイムでは、地元の食という観点から「お酢」をテーマとしたワークショップが行われた。教育旅行プログラムのスタッフの協力を得て、「きき酢」に挑戦した参加者は、難易度の高い問題を会話の材料として、積極的に互いの交流を深めていた。

最後の締めくくりとして、WLACセンター長の亀山先生による講演が行われた。「毒リンゴと核爆弾、オープンハイマーの黙過」というタイトルのもと、導入としてロシアの食にも触れながら、黙過と使喚という重厚なテーマのレクチャーが行われた。高校生はそれらのテーマを自身の問題にひきつけて考え、真剣に耳を傾けていた。

16時半の閉会のあとも、参加者や留学生、学部生たちが別れを惜しむ姿が見られ、充実した出会いの場の余韻を楽しんでいた。このような姿が今後も見られるよう、高校と大学を結ぶ魅力的なプログラムの展開に尽力したい。

(センター運営補佐 梅垣 昌子)



2024年度 Open College 報告

2022年度4月に名駅サテライトキャンパスでスタートしたオープンカレッジは、順調に成長を続け、2024年度は春期講座で教養10講座、言語23講座が、秋期講座で教養10講座、言語18講座が提供され、5日間集中の冬期特別講座で教養3講座、言語10講座が提供されました。今年度も教養講座では、ことば、哲学、美術、教育からSDGsなど多様なテーマに関する講座を開講し、言語講座では英語、中国語、韓国語から、トルコ語やタイ語、スワヒリ語など13言語を提供しました。どの受講生も強い関心を持って受講してくださっていますので、オープンカレッジの教室には通常の大学の授業とは違った熱気と緊張感がありました。熱心に講師の声に耳を傾け授業に臨まれる社会人の姿に、また授業後に通ってくれる高校生の熱意に、本学学生たちも良い刺激を受けていたようでした。

オープンカレッジでは、毎期の講座終了後に受講者アンケートを行っています。アンケート結果は次の公開講座の運営改善に活かすだけでなく、講座の先生方に受講者からのコメントもお伝えして次の講座をご用意いただく際の参考にしていただいています。例えば、受講者からの声を活かした取り組みに、言語講座の難易度調整があります。英語が既習言語である受講者が多いため、ご自身のレベルに合った英語講座を選んでいただけるよ

う、先生方に各講座の難易度をシラバスに記載していただきました。また英語以外の言語では、継続して学んでいただけるよう、一部の言語に中級もしくは初中級も開講しました。さらに、より受講しやすい環境を提供するため、今年度の冬期特別講座では、5、6講時を4日間という形態から、5日間に延長して6講時のみの開講としました。これもまた、受講者からの声を活かした取り組みでした。

受講生には、お一人で同期に複数の講座を受講してくださる方、年度を跨いで継続的に受講してくださる方がいらっしゃいます。教養講座から6講座を修了される毎に「修了証」を発行していますが、2024年度は4名の受講生に修了証を発行いたしました。名古屋外国語大学出版会からの書籍も記念品として贈呈し、大変喜んでいただきました。引き続き、次の6講座の修了に向け、学びを続けていただけるものと期待しています。

名古屋外国語大学は、東海地方で唯一の外国語大学です。この地域の皆さまに、他大学や街の語学学校にはない、外国語大学らしい講座をこれからも提供し、オープンカレッジが地域の皆さまのさまざまな知的関心に応えることのできる「学び」の場となること引き続き目指していきます。

(センター運営補佐 ハンフリー 恵子)



名古屋外国語大学オープンカレッジ 2024年度 公開講座 一覧

春 期 開講期間 2024年4月22日(月)～7月29日(月)

教養講座		言語講座	
科目名	担当者	科目名	担当者
開宗 850 年！法然とその弟子たち—専修念仏の思想と文化	湯谷 祐三	ブラジル・ポルトガル語 (中級)	ジマス・ハダマ・バトリシア
真理と知識の哲学：エピステモロジー入門 I	上西 晃生	洋楽を通して楽しく学ぶリスニング・英文解釈	橋尾 晋平
ネム船長の哲学塾「ついてもいいウン」はあるか？—倫理学入門	根無 一信	中国語入門 1	周素芬(シュウ・ソウフン)
絵本から読み解く日系アメリカ人強制収容の歴史	小林 純子	タイ語初級 (0 からタイ語)	寺田 ダラボン
ネパール文化基礎講座	アスタ・トゥラダール	少し学ばれた方のイタリア語 (初中級) もう一度基礎からのイタリア語	アナスタージャ・ブンドック
イタリア・ルネサンス 西洋美術史の青春時代	桑原 恒和	ドイツ語入門 1	三宅 恭子
ラテン語に親しむ	児玉 茂昭	フランス語入門 1	ジェローム・バク
外から日本語の文法を見ると？—日本語教育文法—	坂本 正	韓国語入門 1	李惠敏 (Lee Hyemin)
Introduction to Sustainable Development Goals (SDGs)	マージョリー・リズエロ	Advanced Intercultural Communication in English	ベッキー・アルブ
ブラジルから見える世界の歴史	鈴木 茂	様々なテーマに関して英語で話してみよう	柴田 直哉
		英語でニュース記事・社説を読んでみよう (英文解釈)	今井 康貴
		学校では教えてくれない英語	溝口 夏歩
		トルコ語入門 1	ガムゼ・ケッレ
		スワヒリ語入門 1	高村 美也子
		中国語初級 1	周素芬(シュウ・ソウフン)
		Introduction to Filipino Language	マージョリー・リズエロ
		はじめてのイタリア語 (入門) アルファベットから始めるイタリア語	アナスタージャ・ブンドック
		スペイン語初中級 1	中川 智彦
		Introduction to Arabic Language	フセイン・サディク
		English Conversation	カミーロ・ピラヌエバ
		FluentExpress: Navigate Life in English	メサウダ・ラバニ
		ブラジル・ポルトガル語 (初級)	ジマス・ハダマ・バトリシア
		タイ語中級	寺田 ダラボン

秋 期 開講期間 2024年9月30日(月)～12月23日(月)

教養講座		言語講座	
科目名	担当者	科目名	担当者
開宗 850 年！浄土教の芸術とその教義	湯谷 祐三	初めてのネパール語と写真比較から学ぶネパール文化基礎講座	アスタ・トゥラダール
コミュニケーションを科学する	橋尾 晋平	中国語入門 2	周素芬(シュウ・ソウフン)
—英語・日本語のコミュニケーションを中心として理論から実践まで—		タイ語初級 (0 からタイ語)	寺田 ダラボン
概念と知覚の哲学：エピステモロジー入門 II	上西 晃生	ロシア語初級完成	イーホル・ダツェンコ
目からウロコの宗教学入門	根無 一信	少し学んだ方のイタリア語 初中級	アナスタージャ・ブンドック
—トクトはなぜ「となり」にいるのか、神がいるならなぜ世界に悪があるのか他	桑原 恒和	韓国語入門 2	李惠敏 (Lee Hyemin)
イタリアへ行く前の美術の予備知識と文化	今井 康貴	フランス語入門 2	ジェローム・バク
生成 AI・コーパスで親しむ英語の古文 (古英語・中英語講読)	児玉 茂昭	様々なテーマに関して英語で話してみよう	柴田 直哉
ギリシア語に親しむ	杉山 真央	トルコ語入門 2	ガムゼ・ケッレ
ソ連・ロシア映画でみる食事コミュニケーション		How Languages are Learned: An Introduction to Language and Mind	ベッキー・アルブ
—我々はどこで食べるのか、我々は何を口にするのか、我々は何を話すのか—	坂本 正	中国語初級 2	周素芬(シュウ・ソウフン)
外国語の習得を考える—外国語教師の基礎知識として—	マージョリー・リズエロ	Exploring the Philippine Culture and Tagalog Language	マージョリー・リズエロ
Introduction to Sustainable Development Goals (SDGs)		始めばかりのイタリア語 初級	アナスタージャ・ブンドック
		スペイン語初中級 2	中川 智彦
		ブラジル・ポルトガル語 (初中級 2)	ジマス・ハダマ・バトリシア
		Introduction to Arabic Letters	フセイン・サディク
		タイ語中級	寺田 ダラボン
		Let's Talk in English	マージョリー・リズエロ

冬期特別講座(集中) 開講期間 2025年2月17日(月)～2月21日(金)

教養講座		言語講座	
科目名	担当者	科目名	担当者
芸術の国イタリアへ行く前の予備知識	桑原 恒和	チャオ！五日間で学ぶイタリア語入門基礎	アナスタージャ・ブンドック
ヘルスツーリズム入門：医療と観光で健康をデザインする	城月 雅大	初心者向けウクライナ語	イーホル・ダツェンコ
ネム船長の哲学塾—妖怪をテツガクする ㊦	根無 一信	Bridging Cultures: Intercultural Communication in English	ケビン・オットソン
		ブラジル・ポルトガル語	ジマス・ハダマ・バトリシア
		旅行会話～中国語	周素芬(シュウ・ソウフン)
		キリル文字からはじめるロシア語の旅	杉山 真央
		英文法・語法ステップアップ講座	橋尾 晋平
		—TOEIC L&R, TOEFL ITP のスコアアップを目指して—	
		Let's Talk About Hawaii: History, Culture, Community	ヒラタ・エリック
		5日間で学ぶ韓国語の会話 (旅行編)	李惠敏 (Lee Hyemin)
		5日間で学ぶ O からタイ語会話	寺田 ダラボン

※ 2025 年度も同様に実施予定です。詳細は本学 HP よりご確認ください。

発行冊子

Artes MUNDI (アルテス・ムンディ)

(※ Artes MUNDI (アルテス・ムンディ) とは、ラテン語で「世界の芸芸 (ぎげい)」のことをいいます。)



本年も無事に Artes MUNDI vol. 10 を刊行することができました。この場をお借りして、執筆者の皆様、編集に関わられた皆様に深く感謝いたします。冒頭にシンポジウム「複言語主義、複文化主義と共生社会」の記録が掲載されています。パネリストは亀山郁夫 (本学学長)、山本冴里 (山口大学准教授)、細川英雄 (早稲田大学名誉教授) です。

本号で特筆すべきは論文カテゴリーでの投稿が多かったことです。岡田新「凱旋の修辞学—「ウェールズの魔術師」と「クーボン選挙」—」児玉茂昭「古典ギリシア語の非人称構文「δοκεῖ + 与格」について」、小堀慎悟「十九世紀末のイギリス領香港における太平山地区の接収事業—「衛生的であること」の意味についての一考察」、渡邊克昭「すべては「関係性」によって繋がっている—後期デリーロにおける量子論的世界観」、長畑明利「エズラ・パウンドの『詩篇』におけるアレクサンダー・ハミルトン批判—高利と銃弾」、八木久美子「宗教教育と宗教リテラシー—教科書の中のイスラムを手掛かりに」、加藤有子「『反ユダヤ主義』のあいまいな定義と批判」、カンデル・ビシュワ・ラズ「『COP29 とグローバル・サウスの叫び』—インドの環境問題と日本企業の活躍機会—」など極めて多彩な内容です。

コラムのテーマは「忘れられない風景」です。外国語でも多く投稿されました。ニノ・ロータの貴重なインタビュー (石田聖子訳) 2 篇は本邦初訳です。

テーマ書評は今話題の生成 AI と現代ネイティブ・アメリカン文学の旗手トミー・オレンジの作品についてです。

WLAC イベントを伝える「フランス・ウィーク」で 2024 年 12 月に来日したパリのエコール・ポリテクニークのオリヴィエ・ベルトラン、イザベル・シャフネール両氏の特別講演が掲載されています。フランス語史とコースラ用に作成したフランス語教材がテーマです。

新刊紹介として、沼野光義、松浦寿輝、田中純『徹底討論 二〇世紀の思想、哲学、芸術』についてのインタビューも掲載されています。

来年度から新たなディケードに突入する Artes MUNDI に、ご期待ください。
(センター運営補佐 伊藤 達也)

【目次】

特集
論文
エッセイ
コラム 「忘れられない風景」
特別講演
翻訳
著者インタビュー
テーマ書評
書評

編 集 後 記

2024 年もまた、地球レベルで悲しい事件が相次ぐ一年でした。ロサンゼルス郊外の山火事は、さながら、異常気象に苦しむ地球そのものの呻吟のようでもあります。トランプ大統領の就任で期待されたウクライナ戦争の解決ですが、首脳会談が物別れに終わり、いよいよ予断を許さぬ状況に陥りつつあります。ヒューマニズムの原点ともいえる「人間の命は、全地球よりも重し」(S・スマイルズ) の精神を思い起こさなくてはなりません。一日も早い平和的な解決を望みます。

さて、今年度の WLAC の活動は、何といたっても「複言語複文化主義」をめぐるイベントにつきた観があります。これまで何気なく用いてきた複言語の理解に一つの明確な指針が与えられました。ただし、「外国語学」(foreign studies) という理念に照らした場合、複言語に劣らず、複文化主義の理解の深化が欠かせないと思います。言語教育と教養教育の融合という、めざすべき方向性をここに見いだせるからです。遠来からお越しくださった細川英雄先生、山本冴里先生のお二人に対し、ここに改めて御礼申し上げます。

今年は、総じて各学科や教職センター主催のイベントを後押しする側に回ることが多かった一年でした。テッド・グーセン氏の講演など、より大々的な広報が必要だったと思います。また、イタリア語月間や、フランスウィークのように、各複言語のさらなる広報活動が望まれるところです。最後になりましたが、教職センター主催による映画「生きる」大川小学校 津波裁判を闘った人たちを忘れない」の上映会を、今年の画期的なイベントとして高く評価したい考えです。「学校が子どもの最期の場となってはならない」の一言が今も私の胸に突き刺さっています。
(センター長 亀山 郁夫)

運営者名簿

名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター

センター長 亀山 郁夫 (学長)
運営補佐 梅垣 昌子 (副学長・英米語学科教授)
エリス 俊子 (世界教養学科教授)
伊藤 達也 (フランス語学科教授)
ハンフリー恵子 (英米語学科教授)

顧問

副学長 高梨 芳郎
〃 佐藤 都喜子
〃 梅垣 昌子
〃 恒川 孝司 (常務理事・法人事務局長・名古屋学芸大学副学長)
事務局 後藤 隆文 (事務局長)
福壽 佳音
田中 蓉

名古屋外国語大学 ワールドリベラルアーツセンター

〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57
電話：0561-74-1111 (代表) 0561-75-2164 (直通)
Mail: wlac_gg@nufs.ac.jp